

RSNA2018 参加報告

手稲溪仁会病院 診療技術部 板谷春佑

今回私は初めて RSNA に参加してきました。私は海外旅行もほとんどしたことがなく、英語もままならないままアメリカ本土に上陸しました。が、しかしこの会の世話人である山口さん夫妻と札幌から同行させていただき、心強く非常に助かりました。

前の日にシカゴ入りしたのでホテルチェックイン後そのまま学会会場に行き参加登録をして batch（首から下げる参加書）をもらいました。会場はさすが RSNA ともあって 3 つの建物を使ってさらに 1 つ 1 つが非常に大きく、違う建物に行くのに最大 15 分ぐらい歩きます。スケールの大きさに感動し、同時に RSNA に来たという実感も湧いてきました。



会場巨大オブジェ！ 右から私、山口さん、山口さん奥様

今回の RSNA はなんと言っても AI がトピックスになっていました。近年 AI は様々な分野で使用されており、現在および近未来を含めて実装するものがほとんどです。さらにわれわれの装置にまで搭載されるようになってきています。やはりそうなるとう放射線技師や放射線科医の存在意義が懸念されますが、放射線技師は AI がまちがった動作をしないか最終確認、そして放射線科医は AI から得られた情報をフルに活用して、AI と患者または臨床医をつなぐ HUB のような存在になっていかななくてはいけないと今回の大会長が講演していました。やはり置いて行かれるのではなく今のうちから AI について勉強し、未来を見据えた使用方法を見極めていかななくてはと思いました。

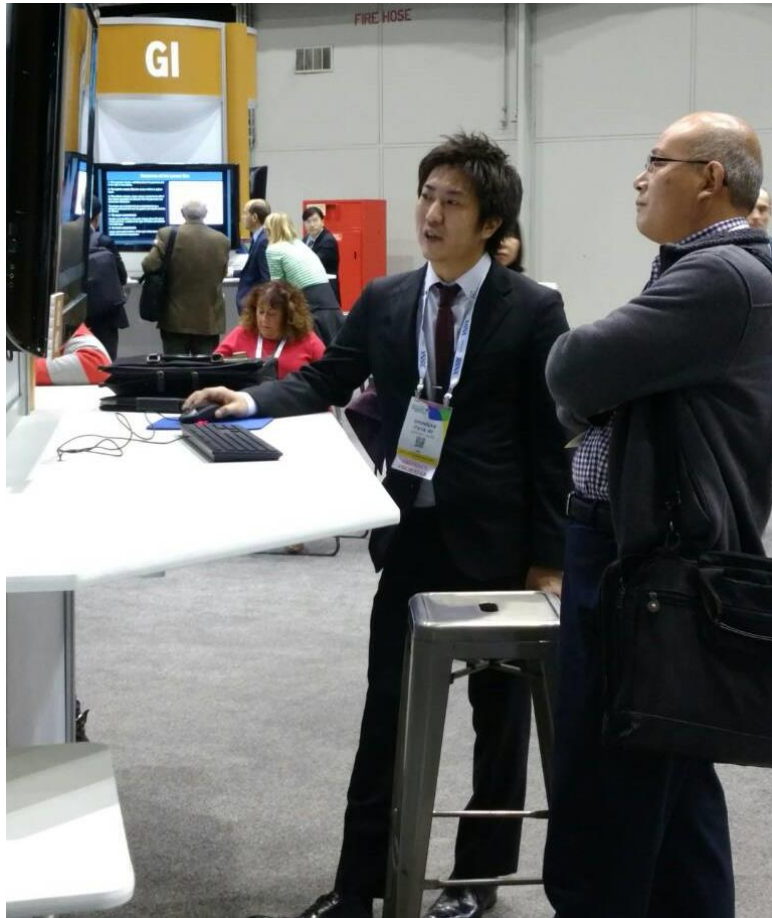
またフォトンカウンティング CT の演題も多く登録されていました。近未来には実装さ

れないかもしれませんが、プロトタイプで稼働しているフォトカウンティング CT の現状を理解するには非常にいい機会でした。現状の Dual Energy CT と比較している演題も多いです。なので非常に興味深い内容となっていました。



オープニングセレモニー

今回は Education のデジタルポスターで 30 分ディスカッションしてきました。私は半分ぐらいしか聞き取れず助っ人に来ていただいていた方に助けをもらいながらなんとか答えました。最後に「nice presentation」と言われたのがすごくうれしく、やり切った充実感が得られました。今回 RSNA に参加して感じたことはあっという間の 1 週間であったことです。学会はさすが RSNA ともあって世界規模の最先端技術や検討および知見を直で学ぶことができ、いろいろ会場を回り聴講していると 1 日がすぐに終わってしまいます。さらに夜は楽しいイベントが盛りだくさんでこちらのあっという間に終わってしまいます。少し休肝日を設けたい気がしましたがそんなもったいない時間はありません！ホテルに帰ってきてすぐ寝て、また朝に会場に出向くというスケジュールですが非常に楽しく刺激的な経験になりました。次回はもっとシカゴを満喫したいので、また参加できるように精進していきたいと思います。



プレゼン中！ 消化器科病院 高林さん寄贈

今年のキヤノンCTはAiCE (deep learning reconstruction) が目玉商品でした。AiCEとは簡単に申しますとAIを利用した再構成であり、テクスチャーの崩れを抑えてノイズを効率的に減らす技術です。前回のJRC（横浜）でも展示されていましたがPrecision限定でした。しかしRSNAではGENESISにも搭載できるように拡大されており、さらに使用できる領域も腹部だけではなくLung, Body, Cardiacへ使える仕様でした。圧倒的にシェアの多いAquilion ONEにAiCEが拡張されており、また一歩進化を遂げていました。当院でも使用しているバージョンにも拡張されると願い、待ち遠しい限りです。



キヤノンブースにて

新しいCTの外観！ではなくキヤノンデジタルカメラとキヤノンCTが融合し、
今以上に綺麗に撮る（映る）というコンセプト